



**AWAJISHIMA
QUEST
COLLEGE**

“淡路島クエストカレッジ”による 冒険し続ける地域と人のつくりかた

2023年11月19日 洲本市域学連携事業10周年記念シンポジウム

淡路島クエストカレッジとは



**AWAJISHIMA
QUEST
COLLEGE**

2023年4月よりスタート。

大学生や若手社会人を中心とした参加者と地域が、
人や地域との繋がり、
自身と地域の未来について考え行動し、
挑戦しつづける場です。

自治体、島内外企業、大学と連携したプログラムや自主的な
プログラムの設計、コーディネート、運営を行っています。

淡路島クエストカレッジの**当初**の目的



**AWAJISHIMA
QUEST
COLLEGE**

**地域課題の解決に向けたチャレンジを通して
冒険人を育む**

これまでの取り組み紹介

2023年2月24日～26日 第2のふるさとづくりワークショップin洲本

2023年2月に、株式会社ワークアカデミーと株式会社ODKソリューションズと協働し、
実証実験を兼ねたワークショップを実施。

洲本市千草竹原地区で2泊3日、**民家のリノベーションやフィールドワークを通して、
洲本市に学生が集う拠点づくりの一角を担う体験**に、関西圏を中心に10名の大学生が参加。



これまでの取り組み紹介

第1回2023年5月／第2回2023年9月 P-1グランプリ 地方創生×Web3.0

Web3.0を用いて地方創生につながる新規ビジネスを企画する、ビジネスアイデアコンテスト。
入賞した企画考案者にはNFTを賞品として発行し、「学んだ経験」を現金化。
企画によっては、新規ビジネスとして実社会に貢献し得る機会の提供を目指す。

主催：一般社団法人 日本アニカナ業協会、協力：兵庫県洲本市／島のしごとサポートセンター（株式会社シマトワークス）／
NPO法人 地方創生協会／アノドライブ株式会社／株式会社ワークアカデミー／一般社団法人 未来教育推進機構
協賛：株式会社ロードカー／株式会社ユーボス



プレゼンテーションの様子



本戦出場者、審査員等の集合写真

これまでの取り組み紹介

2023年4月10日 淡路信用金庫 新入社員研修

「この街をもっと面白くするには？」をテーマに、
市街地をリサーチ&ヒアリングし、チーム提案。



2023年7月31日 テキサス大学生の農園見学&藍染体験

淡路島に滞在している大学生との交流と
淡路島の農業や文化に触れる。



これまでの取り組み紹介

2023年9月1日

mt×洲本市域学連携10周年 マスキングテープアートプログラム

「市街地のリサーチとインタビューを通して、mtを使ってまちが賑わうイベントを考える」と
「mtのマスキングテープを使って洲本市役所庁舎をデザインする」の2つをテーマに開催。

株式会社ワークアカデミーとの協働し、大阪経済大学と武庫川女子大学の2校が合同参加して実施した。
8月23日～9月10日にかけて実施、洲本市での実地ワークは9月1日。



これまでの取り組み紹介

2023年9月23日

龍谷大学1年生スタディーツアーin洲本

龍谷大学政策学部1年生を対象に、洲本を含んだ関西4エリアの地域で合同開催。洲本では80名が参加した。

「**洲本市の資源と課題を知る**」と「**新たなゼロイチを生み出す力や考え方に触れる**」をテーマに、
洲本市の活性化に取り組む続ける”冒険人”にインタビューと市街地を中心としたフィールドワークを実施。



これまでの取り組み紹介【参加者の声】

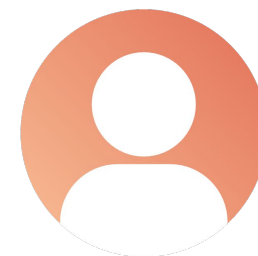
プログラム参加の中での実践的な学びやチームでの活動で、様々な気づきの声があった。



第2のふるさとづくり
ワークショップ参加

地方創生に興味があってワークショップに参加したので、限界集落である竹原地区の取り組みや街づくりに対しての考え方を知ることができて良かったです。今までは将来街づくりに関わってみたいとなんとも思っていたのですが、今回体験してみて、**より街づくりに関わる仕事がしたいなと感じました。**

私たちはアイデアを考える上で、将来洲本市の人口を増やし、経済を活性化することに着目しました。今回、普段の困りごとを解決する方法と地域創生を結びつけることにより、新たなビジネスが生まれることや、お金と情報の仕組みなど、社会について少し知ることが出来ました。**社会人になってビジネスと地域創生や社会課題などを結びつけ、社会の役に立つようなアイデアを考えていきたい**と思います。



P-1グランプリ参加



マスキングアート
プログラム参加

自分は今まで**チームワークなんて効率が悪い、一人でやった方が良いもの**が作れる、**といった考えを多少持っていたが、もしかしたら違うのかもしれない**と感じました。仲間がいるともう一度考えるのも楽しいし、同時に成長出来る。当然違う考えを持っている人がいるし、自分にとって新たな考えが生まれる。今回の研修ではそういうことを考えさせられました。

良いこといっぱい but 課題もいっぱい

①短期的な活動で終わってしまうことも多く、**地域に成果が残りづらい**

②情報共有の不足から、**地域や取り組みごとの繋がりを生み出しにくい**

③参加者満足度は高くとも、**集客面や、継続するための資金面での難しさがある**

④運営メンバーの不足で、**プログラムの展開がしきれていない**

これまでの域学連携の課題（ワーキング検討より）

①**ゴール設計があいまい**ので、関係者全員に共有しきれていない

②**学生**の入れ替わりにより、**活動背景や内容が十分に引き継がれず**、熱量にムラが出る

③**地域人材**の入れ替わりにより、**ノウハウが消失**したり、活動へのストレスが生じる

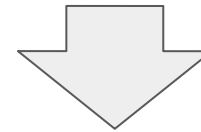
④**地域同士**の**プロジェクト進捗が見えず**、活動ごとのノウハウが活かしきれていない

淡路島クエストカレッジの目的を改めて再考



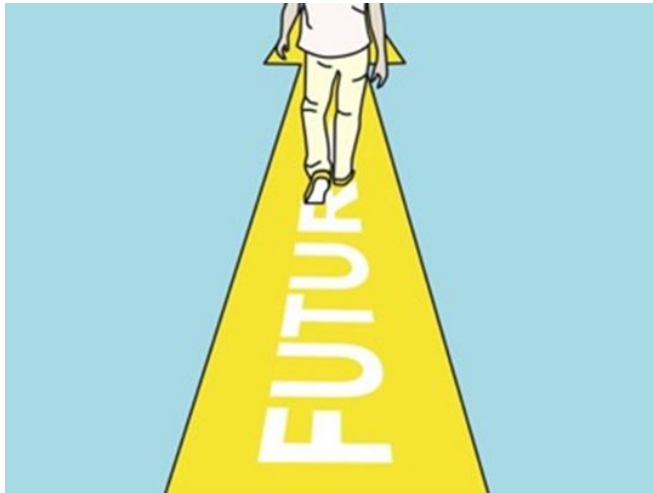
**AWAJISHIMA
QUEST
COLLEGE**

地域課題の解決に向けたチャレンジを通して
冒険人を育む



**冒険する「地域」に伴走する
冒険する「人」を育てる
地域と人の代謝を促し続ける環境をつくる**

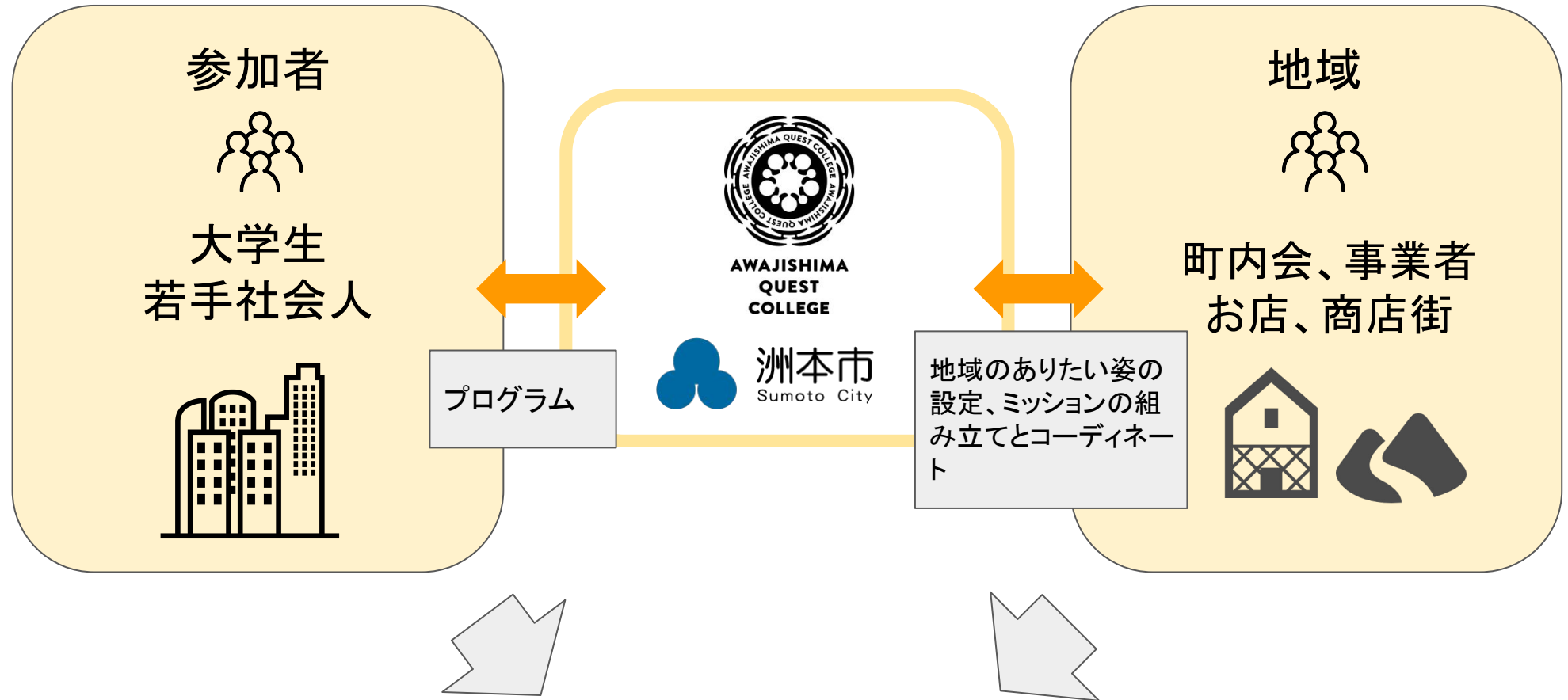
淡路島クエストカレッジの目的を改めて再考



「冒険する」とは

目的に向かって、今いる環境を飛び越え、
自身が持つ価値観や大切にしたいことを確認しながら、
主体的に舵を取って進もうとしている状態。

淡路島クエストカレッジの目的を改めて再考



**伴走しながら
それぞれが一緒に目的に向かって冒険**

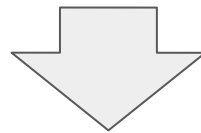
冒険する「地域」「人」に提供できること

「地域」

- ✓ 関係者と一緒に具体的な目標づくり
- ✓ 目標を達成するためのプログラム設計
- ✓ 一緒に冒険する仲間集めとプログラムの推進

「人」

- ✓ 地域・社会課題への挑戦
- ✓ 人生の選択肢が広げる新しい価値観
- ✓ とともに挑戦する仲間や人脈



具体的なプログラムを目的をもって一緒に冒険し、
目に見えるゴールを達成させていく

#地域づくりの動機付け #モチベーションの向上 #関係人口・交流人口の増加 #ソトモノからの新しい視点

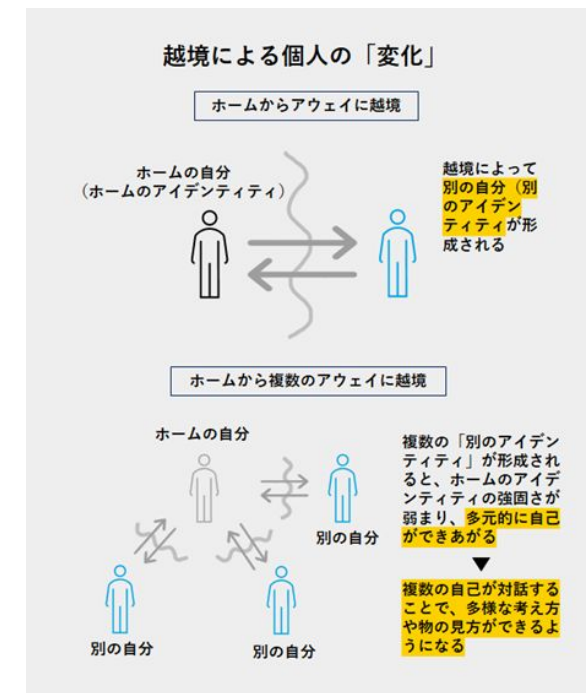
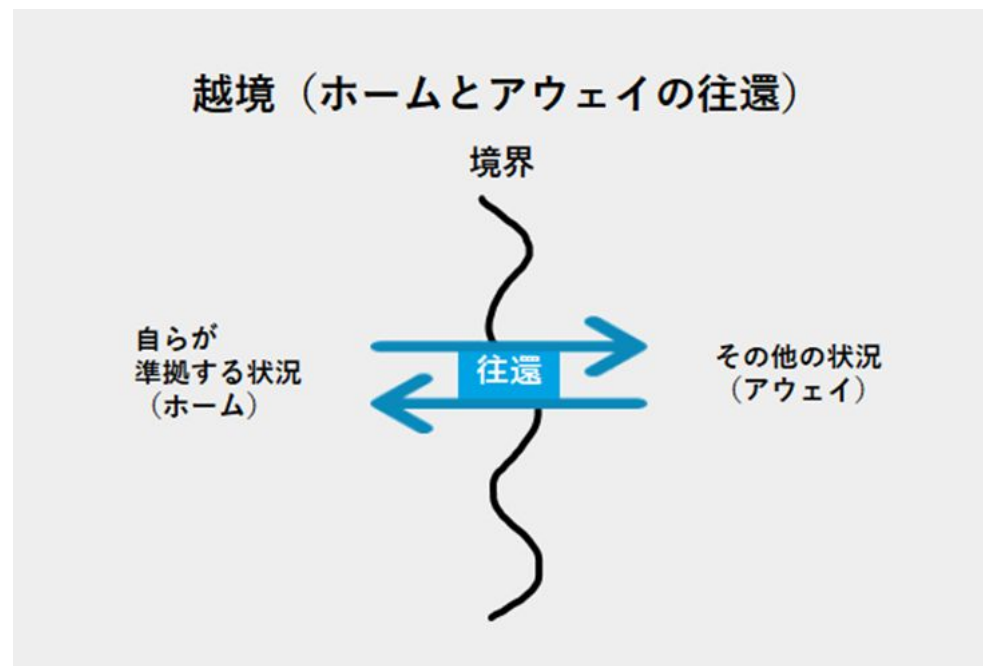
クエストカレッジで大切にしたい考え方① 越境学習

“越境学習”とは、自分にとってのホームとアウェイの境界を越えること。

同じような価値観や考え方を持つ環境(ホーム)の枠を超え、地域や分野、関わる人など未知なる領域(アウェイ)に足を踏み入れ、行ったり来たりする事を指す。

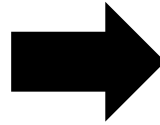
その中で感じる、知らない世界への興味や気づきといったプラス要素と、うまくいかない焦りや自分の常識が通用しないもどかしさ、その両方に直面することでリフレクションが起きる。

その経験を通して体験する、**アイデンティティの見直しと多元化が、固定概念の打破と自分の世界観を広げる成長に繋がる**という考え方。



クエストカレッジで大切にしたい考え方② 計画的偶発性理論

急速に経済のグローバル化が進み、IT技術の進歩が目覚ましい中、**未来に何が起るのか予想することは難しい。**
(VUCA時代への突入)

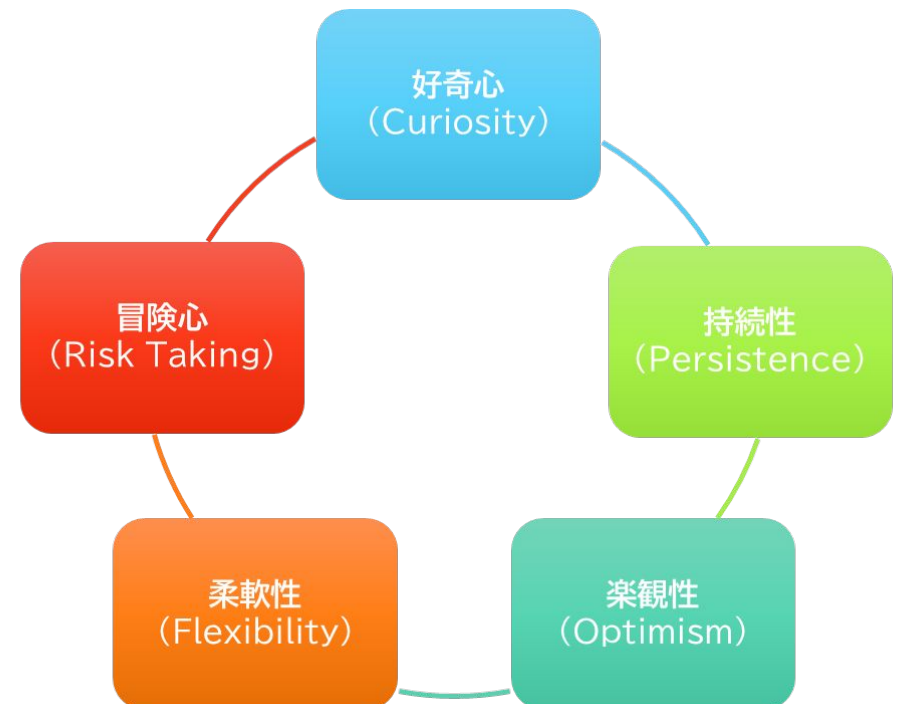


予期せぬ出来事が起きた際に、**行動できるだけの準備をしたり、偶然の出来事に遭遇すべくフレキシブルに行動したりすることで、チャンスが生まれる。**

計画的偶発性理論 3つの理論骨子

1. 予期せぬ出来事がキャリアを左右する
2. 偶然の出来事が起きたとき、**行動や努力で新たなキャリアにつながる**
3. 何か起きるのを待つのではなく、**意図的に行動することでチャンスが増える**

計画的偶発性を起こす行動特性



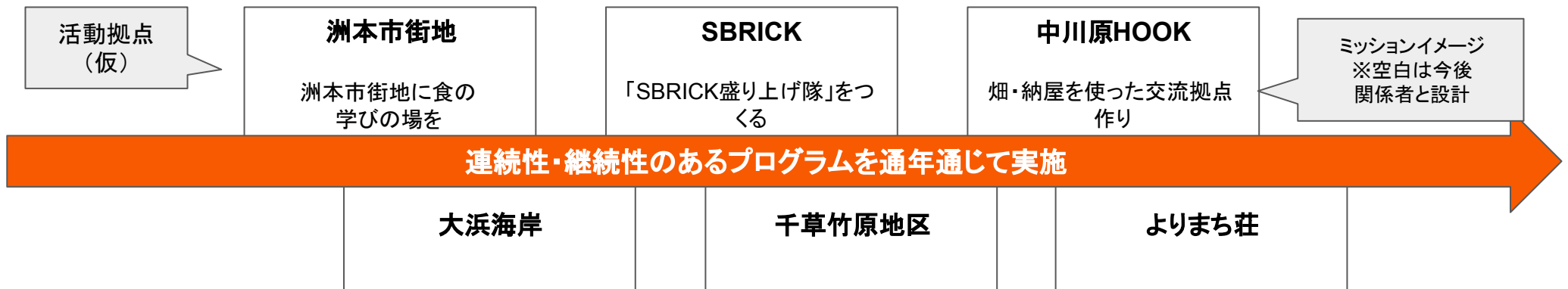
今後の展望

①短期的な活動で終わってしまうことも多く、地域に成果が残りづらい

①ゴール設計があいまいで、関係者全員に共有しきれていない



- 活動拠点を設定、期間を3年とし、**3年間重点的にプログラムを実施**する
- **拠点ごとのミッション設定、ゴール設計を明確にし**、ゴールに沿ったプログラムを設計
- クエストカレッジがコーディネーターの役割を担い、冒険人(地域と参加者)に伴走



地域にとって活動拠点や期間を設けるメリット

- ✓ 関わる地域や活動者が**3年後に地域主体で自走するイメージを描きながら活動する**
- ✓ 活動拠点が3年毎に変わると、**洲本市全体で波及効果が生まれやすい**

今後の展望

②情報共有の不足から、地域や取り組みごとの繋がりを生み出しにくい

②学生の入替わりにより、活動背景や内容が十分に引き継がれず、熱量にムラが出る

③地域人材の入替わりにより、ノウハウが消失したり、活動へのストレスが生じる

④地域同士のプロジェクト進捗が見えず、活動ごとのノウハウが活かされていけない



- 淡路島クエストカレッジ**報告会**の場を定期的に設ける
→関係自治体や大学関係者に限らず、企業や住民が自由に参加見学できる場を作る
- 報告会の動画や資料を残し、**WEB上で閲覧可能**にする



地域にとって報告会や共有の場を設けるメリット

- ✓ 地域間でノウハウや事例を共有し、**行き詰まっている問題のヒント**に
- ✓ 報告会を意識しつつ写真・動画・資料を残すため、**アーカイブが貯まりやすくなり、引き継ぎがしやすくなる**

今後の展望

③参加者満足度は高くとも、集客面や、継続するための資金面での難しさがある

④運営メンバーの不足で、プログラムの展開がしきれていない



- 地域活性化起業人（起業人材派遣制度）の配属で、**民間企業のノウハウを活用**
- 多くの大学、学生とのコンタクト数を持つ株式会社ワークアカデミーが関わることで**持続的な学び場の実現、大学との連携強化**
- noa+※との連携でスキル講座を取り入れたプログラムの開催

※noa+とは、ワークアカデミーが提供する、学生～20代の若手社会人を対象としたキャリア支援サービスであると共に、そこで自ら学ぶ受講生と、成長意欲の高い企業とが出会うマッチングサービス。これからの経済を支える若者・企業の成長を支援するべく、様々な学び講座やセミナー、イベントの提供も行っている。

地域にとって企業や地域活性化企業人と関わるメリット

- ✓ 大学との連携強化で、**今後さらに複数の大学との接点を持つ可能性がある**
- ✓ 専門スキルを持つ学生や社会人との接点を持ちやすく、**知識の代謝、新たな発想が生まれるヒントに**

2023年11月19日 洲本市域学連携事業10周年記念シンポジウム

“淡路島クエストカレッジ”による冒険し続ける地域と人のつくりかた



**AWAJISHIMA
QUEST
COLLEGE**

ご清聴ありがとうございました